



河瀬直美 Kawase Naomi

中学からバスケットボールに夢中になり、高校在学中はキャプテンを務め、国体出場経験もある体育会系少女だった。

1989年大阪写真専門学校（現ビジュアルアーツ専門学校）映画科卒業。

自主映画「につつまれて」（1992）「かたつもり」（1994）が、1995年山形国際ドキュメンタリー映画祭はじめ国内外で注目を集める。

劇場映画デビュー作「萌の朱雀」（1996）で、1997年カンヌ国際映画祭カメラドール（新人監督賞）を史上最年少受賞。続く「柚人物語（そまうどものがたり）」（1997）で、1999年ニオン国際映画祭特別賞受賞。

2000年「火垂（ほたる）」は、スイスのロカルノ国際映画祭コンペティション部門にてワールドプレミアされ、国際批評家連盟賞、ヨーロッパ国際芸術映画連盟賞のダブル受賞、2001年ブエノスアイレス国際映画祭でも最優秀撮影監督賞、主演女優賞（中村優子）を受賞。

2003年カンヌ国際映画祭コンペ出品作品「沙羅双樹」はビデオ、DVD発売中。

2002年には第1回 Infinity Film Festival（イタリア/アルバ）、パリ市立美術館主催 "Jeu de Paume"、ロサンゼルスRED/CAT(2005)にてレトロスペクティブを開催。

他主な作品に「万華鏡」(1999)「きゃからばあ」(2001)（仏テレビ局アルテ社との共同制作）「追憶のダンス」(2002)「影 -shadow-」(2004) などがある。最新ドキュメンタリー映画「垂乳女～Tarachime～」(2006)は、2007年山形国際ドキュメンタリー映画祭で特別賞を受賞。

第60回カンヌ国際映画祭でグランプリを受賞した「殞の森」(2007)は2007年7月より全国上映され、現在DVD発売中。

2008年には、待望の初期ドキュメンタリー作品集「紡ぐ」(5枚組DVDBOX)をリリースし、長谷川京子を主演にむかえ、初の海外ロケを行った「七夜待（ななよち）」が公開された。

CF演出、エッセイ執筆などジャンルにこだわらず表現活動を続けており、2010年より開催予定の「なら国際映画祭」ではエグゼクティブディレクターを務める。

Q & A

1、映画を撮ろうと思ったきっかけは？

生涯続けられる仕事につきたかったから。
高校3年の夏頃、卒業後の進路を決定するにあたって、わたしは迷いに迷っていた。
中学時代から続けているバスケットボールでの体育大学の推薦入学を薦められていた。
朝から晩までバスケットボール一色の高校時代は、一日5回食べないと身がもたないほど、運動していた。
奈良県の北部に位置する高校だとはいえ、京都との県境まで約10キロのランニングをこなしたり、筋肉をつけるためにプロテインを飲みながらウエイトトレーニングもした。
左からの攻めに強くなるために食事をすべて左でするなど、とにかく星飛馬や鮎原こずえに負けないくらいの努力は積んだ。
そして奈良県代表で国体にも出場するほどだった。
しかし、ふとこれは何歳まで続けられるんだろうと、素朴な疑問がわたしの脳裏をかすめた。
よーがんばって30歳かな・・・
それを思うと、あとの人生は何をするんだ？ととてつもなく不安になった。
現役ではなくなる・・・わたしにとっては非常に辛いことだ。
バスケットボールに関わっていても指導者にはなりたくない。
生涯現場に立ってられる仕事に就こう！
そして、それが「ものづくり」だということに、はたと気付く。
80歳になっても90歳になっても、ものをつくりつづけよう！
かくして、わたしは映画の道を突き進むことになるのです。
もちろん、完全体育系のわたしですから映画なんて、まったく知らないわけで、とっかかりはTVの現場に行きたいでした。
しかし、入学した専門学校が映画に力を入れていたこともあり、どんどんとフィルムの世界にのめりこむのです。

2、作品の中で「家族」がテーマのものが多いいのは何か理由がありますか？

「家族」はもっとも身近な人と人との結びつきを考えるのに一番いいとおもっているから。
それと、やはり自分の生い立ち（※）を考えるときに、わたしに無かったものをつくりあげたい、という衝動にかられるのかもしれない。
（※）父と母がわたしがお腹にいるときに別居をして、1歳半の時に離婚したことから、母方の叔母夫婦のもとで育っている。（祖父母も離婚をしていたため自分の両親に母は身を寄せられなかった）
叔母夫婦は子供に恵まれず、わたしを実の子のように育ててくれる。
小学校4年生の時、この夫婦の養女になる。
ここで「河瀬」姓を名乗ることとなる。
14歳のとき、この養父が66歳で他界。
養母と二人の生活を余儀なくされる。

3、影響を受けた人はいますか？

おじいちゃん（育ててくれた人）

Q & A

- 4、どんなカメラを使っていますか？ ————— FUJICA シングル 8、SONY PC9 デジカム、CANON IXY デジカム、FM2 一眼レフ
- 5、一日の中でどんな時間が好きですか？ ————— 夕暮れ、なんだかみんなが家に帰ってゆく時間が好き。
- 6、こだわって使いつづけているものはありますか？ ——— 昔、誕生日にもらった筆ペン。袋つきでもちやすく、書きやすいから
- 7、作品のタイトルはいつ決めますか？ ————— 一番最初、脚本も出来る前。
- 8、いちばん嬉しかったプレゼントは？ ————— 何でも無い日に買ってきてくれた花束。
- 9、映画作家になっていなかったら、————— 花屋
何をしていたと思いますか？
- 10、好きな映画は？ ————— 息子のまなざし
- 11、好きな映画監督は？ ————— ビクトルエリセ、タルコフスキー、ダルデンヌ兄弟。
- 12、好きな作家は？ ————— 川上弘美、よしもとばなな、おーなり由子、高野文子。
- 13、いろんな場所へ旅行されていると ————— ロシアのサンクトペルブルグ、チェコのイーラバ。
思いますが特に印象深い場所がありますか？
- 14、どんな学生生活を送っていましたか？ ————— 中学時代は実はヤンキー、高校時代はバスケット部の主将、1日5食、朝から晩までバスケット。ひととおりの悪さはしました！
- 15、将来どこか暮らしてみたいと ————— 沖縄、長寿をめざしているの。
思っている場所がありますか？
- 16、好きな色は？ ————— 黄色。昔、ベストテンに田原俊彦（としちゃん）の歌をかけてくれるよう葉書を書いた時、河瀬希彩（きいろ）というペンネームでかいたこともあるくらい好き。
- 17、好きな季節は？ ————— 夏、すべての長編映画は夏に撮っている。冬は脳ミソまでかじかんでしまうのではないかと思うくらい寒がり。
- 18、料理は得意ですか？ ————— つくるのが好き。みちゆきの離乳食はすべて手作り。ベビーフードを食べさせたことがない。
- 19、ペットは飼っていますか？ ————— 昔飼っていた。犬、和音（わおん）という名のゴールデンレトリバー。キャミリという名のポメラニアン。ああ、体長20cm程の金魚を飼っている。
- 20、信仰しているものはありますか？ ————— おじいちゃんに毎朝のごあいさつ